

横堰遺跡A地区

—国道137号線バイパス建設に伴う発掘調査報告—

1988.3

山梨県教育委員会
山梨県土木部

横堰遺跡A地区

—国道137号線バイパス建設に伴う発掘調査報告—

1988.3

山梨県教育委員会
山梨県土木部

序

本報告書は、国道137号バイパス建設事業に先立ち、甲府盆地の東部に位置する山梨県東八代郡御坂町上黒駒地内において発掘調査された横堀遺跡のA地区について、その成果をまとめたものであります。

御坂町を含む甲府盆地東南縁地域は、御坂山脈の西麓に複数の扇状地が発達する地域であります。その扇状地上には、原始時代からの人々の生活の痕跡である埋蔵文化財が濃厚に分布しております。横堀遺跡があります金川の扇状地も、縄文時代中期の多くの遺跡や群集墳の存在が知られており、古代律令制下においては、甲斐路もしくは御坂路と呼ばれた官道が通過した地域であり、東海道方面と甲府盆地をつなぐ交通の要衝として重要な位置を占めておりました。金川の扇状地から甲府盆地平野部に出る付近一帯は、古墳時代後期から古代にかけて甲府盆地の中核地のひとつであり、東日本最大規模の横穴式石室をもつ県指定史跡姥塚古墳や、それに隣接して、1979年・1981年にかけて調査されました姥塚遺跡・二之宮遺跡など、重要な遺跡の存在が知られる地域であります。またこの地域には、国衙という地名が示すとおり、平安時代に甲斐國府が存在したと推定されております。

このような歴史的背景をもつ金川扇状地域において、従来から古代遺跡の様相が明らかでなかった扇頂部に位置する横堀遺跡の調査成果をまとめることができましたことは、意義深いものがあります。横堀遺跡は、1987年10月から12月にかけて調査され、その結果、遺構は確認されなかったものの、8世紀前半代を主体とする土師器の包含層が確認され、それらは土器廃棄の場と考えられるものがありました。特に注目されるのは、多量の手捏ね土器、また橢瓶型ミニチュア土器が出土したことであり、横堀遺跡周辺で行われた祭祀行為の存在を裏付ける重要な遺物であります。扇端部にあたる同町内の下成田遺跡・姥塚遺跡からも同様の祭祀遺物が出土していることを考え合わせれば、古代官道の道筋にあたる金川流域の重要性が、さらに深く理解されることとなりました。今後、この調査成果が、古代甲斐國研究の場において十分に考慮され、活用されますことを願ってやみません。

末筆ながら、種々ご協力を賜った関係機関各位、地元の方々ならびに直接調査に従事していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

1988年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 磯貝正義

目 次

序 文

例言・凡例

目次・挿図目次・図版目次

第Ⅰ章 調査の実施と経過	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査組織	1
第Ⅱ章 遺跡概況	2
第Ⅲ章 遺物	3
第1節 遺物の出土状況について	3
第2節 遺物について	3
第Ⅳ章 まとめ	13

挿 図 目 次

第1図 横堀遺跡位置図 (1/25000)	第4図 出土遺物実測図 (1/4)
第2図 横堀遺跡調査区域図 (1/1000)	第5図 出土遺物実測図 (1/4)
第3図 出土遺物実測図 (1/4)	第6図 出土遺物実測図 (1/4)

図 版 目 次

図版1 調査風景	図版4 出土遺物 (1)
図版2 遺物包含層検出状況	図版5 出土遺物 (2)
図版3 遺物出土状態	

例　　言

1. 本報告書は、昭和62年度に国道137号バイパス建設事業に伴って発掘調査された、山梨県東八代郡御坂町横堀（よこせき）遺跡A地区の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、横堀遺跡南側のA地区について、山梨県教育委員会が県土木部の委託を受けて実施した。
3. 発掘調査及び出土品の整理は、山梨県埋蔵文化財センターが行い、同機関文化財主事田代孝が担当した。
4. 本報告書の執筆・編集は、田代孝・山形真理子（東京大学大学院）が共同して行った。
5. 写真撮影は田代、遺物のトレースは名取洋子・内藤真千子が行った。
6. 本報告書にかかる出土品及び記録図面、写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

凡　　例

1. 本書の遺物実測図の縮尺は、全て $\frac{1}{4}$ に統一している。
2. 遺物の計測表について、（　　）内の数値は推定復原値を表し、単位はcmである。

第Ⅰ章 調査の実施と経過

第1節 調査に至る経過

本遺跡の調査は、国道137号線バイパス建設に伴うものであり、山梨県土木部より県教育委員会が委託を受け、県埋蔵文化財センターが実施した。1987年10月、工事予定地域である東八代郡御坂町上黒駒地内の試掘調査を行った。

試掘調査を行ったのは、金川左岸の河岸段丘にある上黒駒字横堰地内で、県道（鎌倉街道）から国道137号線の間、南北200mの範囲である。調査地域は桃・ぶどうを主体とした果樹畑であり、樹木を避けて試掘坑を設定し、人力による掘り下げを行った。試掘調査によって、北端の県道寄りに大小の礫に混じって縄文時代前期の土器片を多数確認し、さらに100mほど南の地点で、土師器片の集中する箇所を確認することができた。この結果、試掘調査の範囲内に、二か所の遺跡の存在を推定することができた。

土木部との協議から、横堰遺跡を二地区に分け、南側の土師器の集中部分をA地区、北側の縄文土器の集中地区をB地区とし、B地区については御坂町教育委員会が発掘調査を行うこととし、A地区を当埋蔵文化財センターが担当することとなった（第2図のスクリーントーン部分）。A地区については、試掘調査に引き続いて10月中旬より、本調査に着手することとなつたのである。

第2節 調査組織

本遺跡の調査は、以下のような人員によって行われた。

調査担当者 田代 孝（山梨県埋蔵文化財センター）

発掘作業員 水野英子・鈴木寿美恵・堀内政子・岩間洋子・池水やす代・岩間幸子・岩間とく子・加藤高尾・弦間タツ子・弦間洋子・山本幸江・矢野豊子・村松須美子・岡部喜江子・堀内はつ子・里吉はつ子・山本幸子

整理作業員 松野和美・内藤真千子・名取洋子・石川 操

（いづれも順不同）

第Ⅱ章 遺跡概況

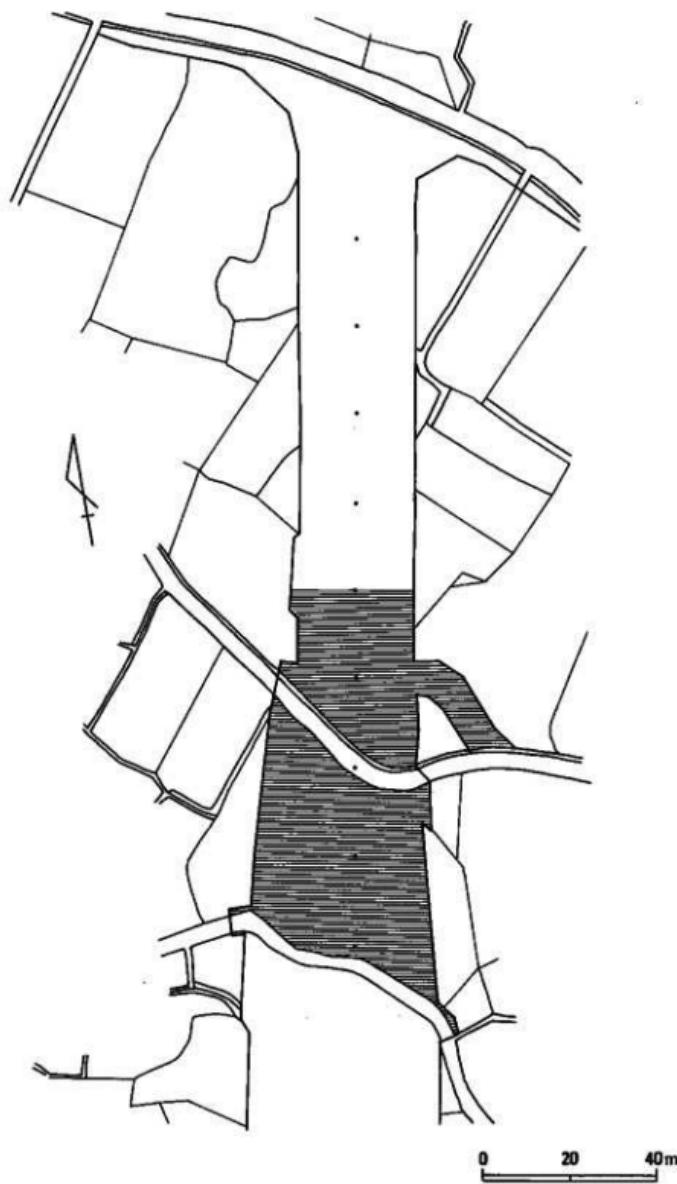
横堀遺跡の所在地は、東八代郡御坂町上黒駒字横堀1151-1番地ほかである。甲府盆地の東縁を画して連なる御坂山塊の西側裾部は、幾つかの典型的な扇状地が発達する地域であるが、遺跡の位置は、そのうちの一つである金川扇状地の扇頂部分にあたる。遺跡の標高は約465mである（第1図）。調査区域は東西20m、南北200mであり、北側部分のB区は御坂町が調査を担当し、今回報告するのは南側部分のA地区である（第2図）。

御坂町はその町域の67%が山地であり、残る部分が金川扇状地と天川扇状地からなる平地である。御坂山脈の八町峠付近より源を発する金川は、多くの支流を集めて12kmほど流れ下った若宮地内において山地から扇状地に入り、さらに7kmほど流れで笛吹川に合流する。金川は山地で深い谷を刻んでいて、右岸は断崖で急斜面となり、左岸は山麓斜面が多く河岸段丘が発達している。金川の谷が広がり、山地から平地になる若宮付近の左岸一帯に広がる台地上に多くの遺跡があり、横堀遺跡もその一つであり、若宮集落のやや下方を占めている。遺跡近辺は桃、ぶどうなどの果樹園がひろがる地帯である。

横堀遺跡周辺の扇頂付近には、縄文時代の遺跡が多い。今回の調査区域に接した北側部分は御坂町が調査しているが、縄文時代前期の遺構が確認されている。また、遺跡東南方のさらに100m程標高の高いところに、縄文時代中期の桂野遺跡があり、金川をさかのぼった右岸には、特異な風貌で知られる黒駒の土偶を出土した、同じく中期の中丸遺跡がある。この金川の扇状地の扇端部及び扇央部には、長田古墳群と呼ばれる群集墳があるが、その分布の端にあたる古墳が3基、横堀遺跡の近辺に存在する。本遺跡と同じ奈良時代、そして平安時代の遺跡は、より標高の低い扇端部及び扇央部に多いが、遺跡南方のごく近い所に、当該期の遺跡だと思われる屋戸林遺跡がある。本遺跡より4kmほど下った、扇状地から甲府盆地平野部に下りたばかりの位置にあたる御坂町井之上・二之宮には、古墳時代～平安時代の大規模な集落遺跡として知られる二之宮遺跡・姥塚遺跡がある（坂本1987、末木1987）。



第1図 橋堀遺跡位置図



第2図 横堀遺跡調査区域図

第Ⅲ章 遺 物

第1節 遺物の出土状況について

本遺跡からは遺構は発見されなかったが、扇状地特有の自然礫の群集の中に混じるような形で、奈良時代の遺物、さらには若干の繩文・平安・中世の遺物が発見された。遺跡の層序は単純で、30cmほどの表土（耕作土）を除くと、すぐに扇状地の形成層である礫層に達する。径10cm大～50cm大の自然礫がごろごろしている状況であり、その層中でも上層が遺物包含層にあたる。出土した土器は、この場に廃棄されたものと考えられ、壺や置きカマドの破片は、近くに生活の場が存在したことを示している。また、多くの小型手捏ね土器などの祭祀遺物は、周辺で行われた何らかの祭祀行為の後に、ここに持つて来られて廃棄されたものであろう。

第2節 遺物について

今回の調査区域では、繩文時代の編み物圧痕を有する底部が2個体分（第6図23・24）、平安時代に属するとみられるもの若干量（第6図6の底部など）の他、主体となるのは8世紀前半にあたる時期の遺物であった。遺物はいずれも土師器であり、壺が多く出土した一方、壺がほとんど見られなかっことが特徴である。よって厳密な時期をとらえることが困難であったが、壺の特徴を手掛かりとすれば、坂本・末木・堀内編年のI期もしくはII期、つまり8世紀の前半が主体となる時期と考えられるのである（坂本・末木・堀内1983）。また、手捏ね土器や横瓶形のミニチュア土器が発見されたことは、祭祀行為の存在を示しているものとして注目される。

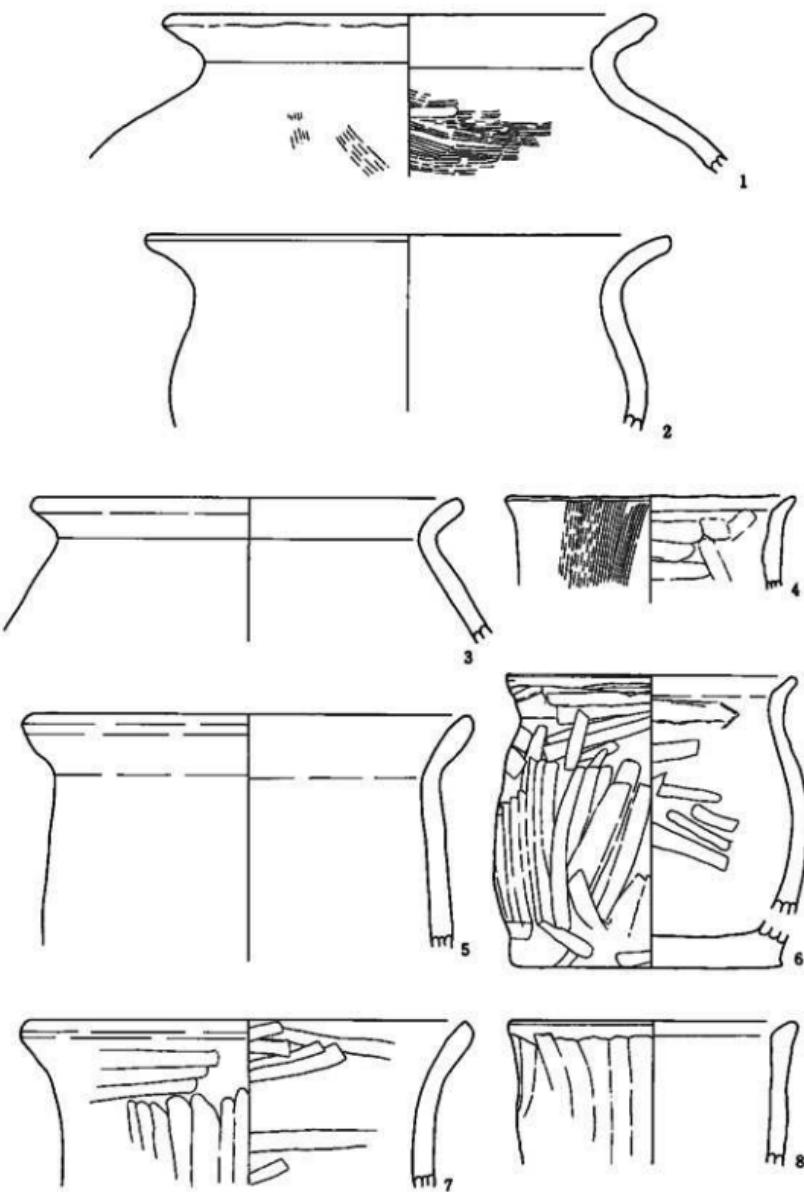
図番号	器形	器高・口径・底径 () 内は復原値	色調・胎土	整形・特徴・その他
第3図1	壺	(23.0)	茶褐色、砂粒含	外面ヘラ調整後横ナデ 外面胴部、内面はハケ目 口縁部約1/4破片
2	壺	(25.0)	茶褐色、砂粒含	内外面横ナデ 反転、口縁部約1/6破片
3	壺	(21.0)	赤褐色、砂粒含	内外面横ナデ 口縁部約1/6破片
4	壺	(13.8)	茶褐色、砂粒含	内外面ともヘラ・ハケ目 反転、口縁部約1/4破片
5	壺	(22.0)	赤褐色、砂粒含	内外面横ナデ

図番号	器形	器高・口径・底径 ()内は復原値	色調・胎土	整形・特徴・その他
6	壺	14.2 14.0 13.2	黄褐色、砂粒含	内外面ともヘラ削り調整 ほぼ完形、底にわずかに木葉痕あり
7	壺	(22.0)	茶褐色、砂粒含	内外面ともヘラ削り調整 口縁部約1/6破片
8	壺	(14.0)	茶褐色	内外面ともヘラ削り調整
第4図1	置きカマド	(42.0)	茶褐色、砂粒含	内外面横ナデ、上端部とひさし部分若干残る
2	置きカマド	(52.0)	外面暗茶色 内面茶褐色、砂粒含	内外面ハケ目調整、炊き口など下半径1/2ほど残る
3	壺	(20.4)	茶褐色、砂粒含	内外面ともハケ目よく残る 口縁部～胴部約1/2破片
4	支柱	(4.5) (4.6)	茶褐色、砂粒含	指頭痕が残る
5	壺	(9.2)	茶褐色、砂粒含	外面縦、内面横のヘラ削り 胴部下半1/3破片
6	壺	(19.6)	茶褐色、砂粒含	内外面ハケ目、 外面口縁部は横ナデ
7	壺	(18.0)	外面明褐色	外面は縦ハケ目、内面は横ハケ目調整
第5図1	壺	11.0	茶褐色、砂粒含	底部木葉痕、底部周囲はあらくナデ
2	壺	10.0	茶褐色、砂粒含	底部木葉痕、胴部外面は荒れがひどいが、縦ハケ 内面は横ハケ目調整
3	壺	10.0	茶褐色、砂粒含	底部木葉痕、底部付近 内外面ともヘラ削り
4	壺	(11.3)	茶褐色、砂粒含	底部木葉痕、調整は不明だがハケ目らしきものあり
5	壺	(7.4)	茶褐色、砂粒含	底部木葉痕、底部周囲をヘラ削り
6	壺	(9.0)	暗茶褐色、砂粒含	底部木葉痕、内外面ともヘラ調整
第6図1	壺	(10.0)	暗褐色、砂粒含	底部木葉痕、内外面ナデ

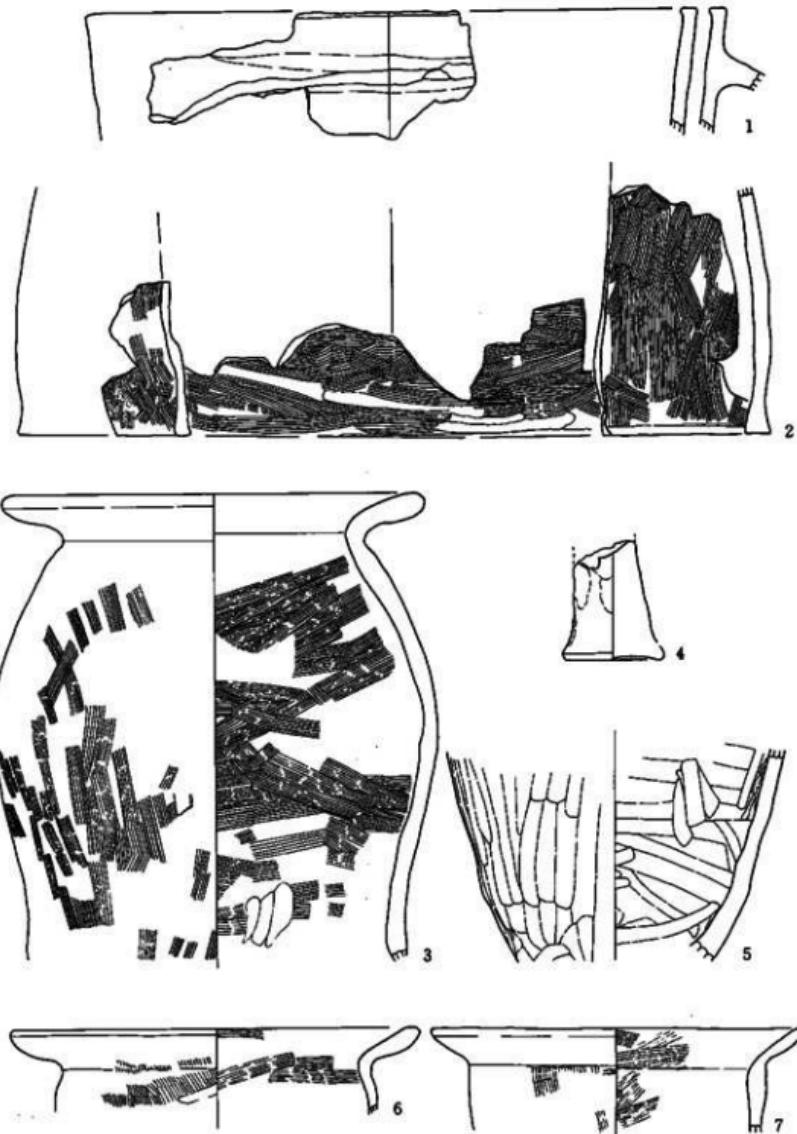
図番号	器形	器高・口径・底径 () 内は復原値	色調・胎土	整形・特徴・その他
2	壺	(9.0)	暗褐色、砂粒含	底部木葉痕、内外面前面 ヘラ削り
3	壺	8.5	茶褐色、砂粒含	底部木葉痕、外面縦、内面 横のヘラ調整
4	壺	(7.8)	茶褐色、砂粒含	底部木葉痕。内外面あらく ナデ
5	壺	(10.0)	内面暗褐色 外面茶褐色、砂粒含	底部木葉痕
6	壺	(7.8)	赤褐色、砂粒含	内外面ナデ、のち若干ヘラ 削り、底部周縁に指頭圧痕
7	手捏ね土器	3.1 5.4 4.6	暗褐色、砂粒含	内外面ナデ、指頭痕残る
8	手捏ね土器	2.9 4.8 4.3	茶褐色、砂粒含	内外面ナデ、指頭痕残る
9	手捏ね土器	3.1 5.5 4.4	茶褐色、砂粒含	内外面ナデ、指頭痕残る
10	手捏ね土器	(2.2) (4.4) 3.6	茶褐色、砂粒含	内外面ナデ、指頭痕残る
11	手捏ね土器	2.6 6.4 5.0	明茶褐色、砂粒含む	底部木葉痕
12	手捏ね土器	2.9 4.9 4.1	茶褐色、砂粒含	内外面ナデ、底部周縁に指 頭痕、外面に輪積み状の粘 土の繼ぎ目が残る
13	手捏ね土器	2.7 4.7 4.9	茶褐色、砂粒含	内面のナデがくっきり残る 底部の張り出しが頭著
14	手捏ね土器	2.3 (4.8) (4.0)	茶褐色、砂粒含	内外面ナデ、口縁上が平坦 となる部分あり 1/4欠
15	手捏ね土器	3.3 4.8 4.5	茶褐色、砂粒含	内外面ナデ、外面に指頭痕 よく残る
16	手捏ね土器	3.0 5.0 4.9	茶褐色、砂粒含	内外面ナデ、指頭痕残る 口縁部非常に薄手
17	手捏ね土器	(2.3) (5.0) 4.6	明茶褐色、砂粒含	内外面ナデ、指頭痕残る 器壁が厚く、内側が浅い
18	手捏ね土器	2.1 4.1 4.0	茶褐色、砂粒含	内外面ナデ、指頭痕残る 器壁が薄く、内側が浅い

図番号	器形	器高・口径・底径 ()内は復原値	色調・胎土	整形・特徴・その他
19	手捏ね土器	(1.9) (5.2) 4.5	茶褐色、砂粒含	内面ナデ、指頭痕残る 口縁部は打ち欠かれる
20	手捏ね土器	3.1 5.4 4.5	茶褐色、砂粒含	内外面ナデ、指頭痕残る
21	手捏ね土器	3.3 (7.0) (6.0)	明茶褐色、砂粒含	やや大型で、口縁部が平坦 によく残る。½ほど欠 底部木葉痕 内外面丁寧な ナデ、器壁は厚いが底部は 薄い
22	横 瓶 型 土 製 品	高4.2底面5.0×2.4	茶褐色、砂粒含	依型の中実の体部に、口縁 部を模したつまみがつき、 上端にくぼみが穿たれた指 頭痕が残る 底面は平坦で すわりがよい
23	绳 文 土 器 の 底 部	6.0	茶褐色、砂粒含	底部網代痕
24	绳 文 土 器 の 底 部	9.0	暗茶褐色、砂粒含	底部網代痕

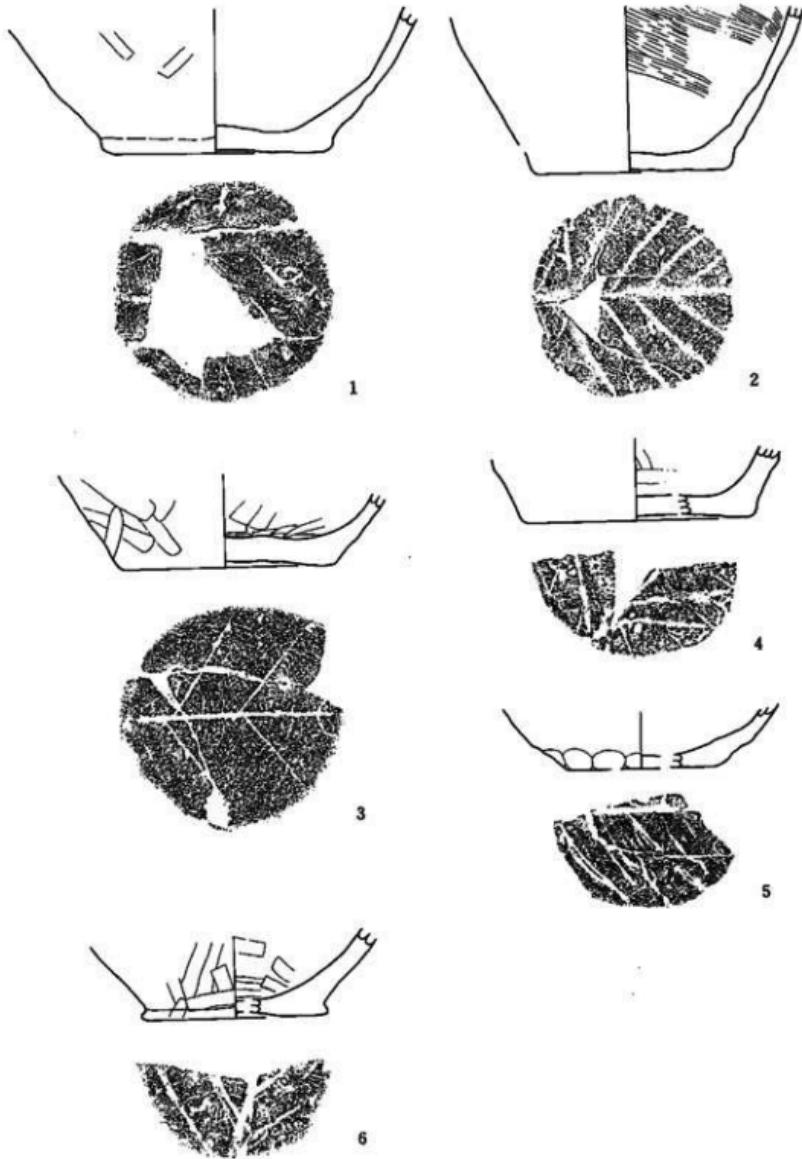
これらの遺物のうち問題となるのは、祭祀関係の遺物である小型手捏ね土器の一群と横瓶型のミニチュア土製品であろう。いずれも厳密な時期は求めにくいが聖とほぼ同じ時期と考え、8世紀の前半に位置付けておくのが妥当であろう。手捏ね土器はいずれも、底部が若干張り出し、底径が口径に近い大きさをもつ安定したもので、粗雑な作りの口縁はもともと高さに凹凸があり、また故意に口縁を打ち欠いたと思われるものも見られる。内面はよくなでられ、椀状である。横瓶型のミニチュア土製品は、古墳時代の系統をひくものであることは明らかであり、7世紀終末から8世紀前半までの時間幅の中でとらえておきたい。県内の手捏ね土器の類例としては、本遺跡と同じ御坂町の下成田遺跡（萩原他1974）、姥塚遺跡（末木1987）が知られるが、いずれも扇状地と甲府盆地平野部の接点のような位置にあり、本遺跡よりかなり標高が低い。



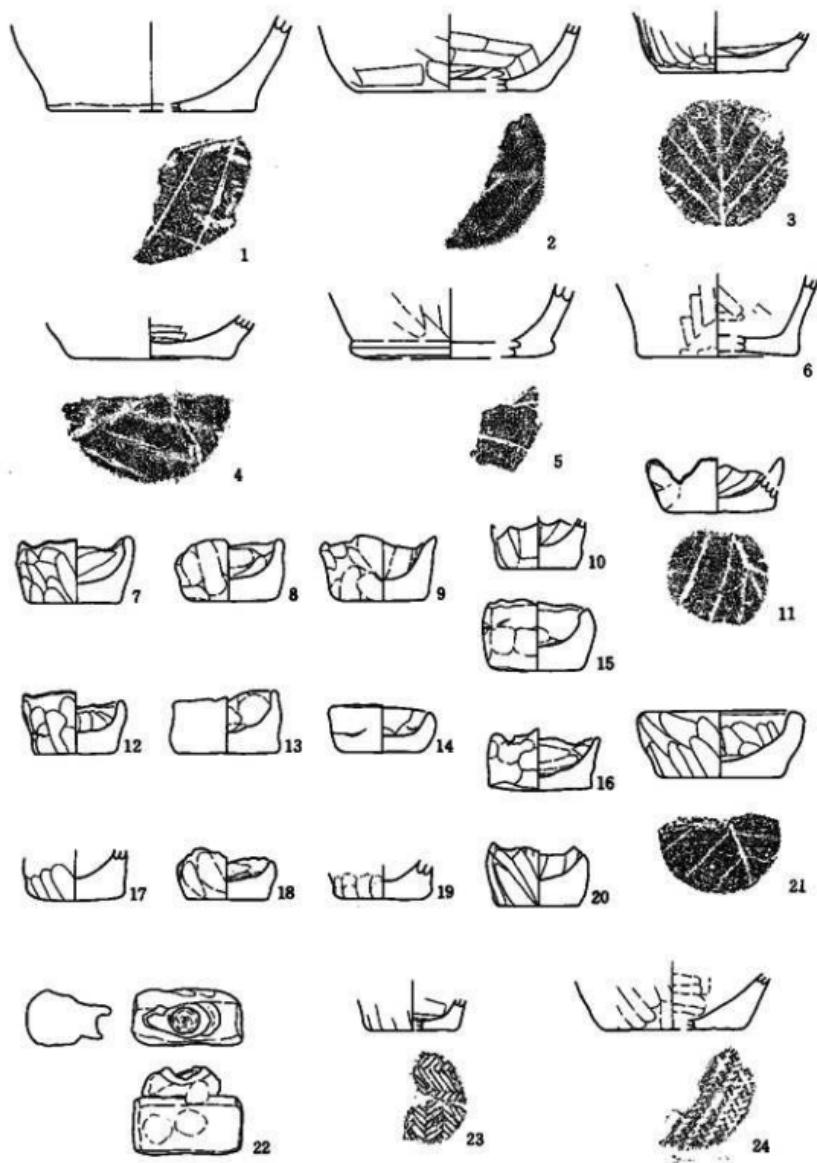
第3図 出土遺物実測図 (1/4)



第4図 出土遺物実測図 (1/4)



第5図 出土遺物実測図 (1/4)



第6図 出土遺物実測図 (1/4)

第IV章 まとめ

横堀遺跡の今回の調査では、遺構は検出されなかったが、8世紀前半すなわち奈良時代前半期の遺物を発見できたことは大きな成果であった。遺物の主体となったのは土師器の壺で、置きカマドは見られたが、壺の破片はごく少数であった。また、祭祀遺物である手捏ね土器と横瓶型ミニチュア土製品が出土したことは注目される。

それらの遺物は、扇状地特有の疊層の比較的上層に、疊とともに散漫に分布している状態であった。壺やカマドのような生活遺物も、祭祀遺物も、ともに廃棄される場であったと考えられよう。ここに土器捨て場が存在することは、周囲に集落遺跡・祭祀遺跡が存在することを確実に示している。壺の出土が少量であったことは理解に苦しむところであるが、ここでは偶然の結果と考えておきたい。なお奈良時代の他に、縄文時代、平安時代、さらに中世の遺物若干が出土している。

金川扇状地は、古代律令制下の官道・御坂路が通過したと推定されており、水市駅の存在なども考えておかねばならない地域である。その意味で、金川扇状地の扇頂部にて8世紀前半代の遺跡が発見された意義は大きい。扇状地中央部から先端部にかけては多くの古墳時代～奈良時代の遺跡が知られるが、扇状地から平野部に降りた位置にある下成田遺跡・姥塚遺跡にも本遺跡と同じような手捏ね土器があることは興味深い。手捏ね土器と横瓶型ミニチュア製品が一連の祭祀行為の所産であるとは限らないが、古墳時代の祭祀の名残をとどめる横瓶型ミニチュア土製品は7世紀終末にさかのぼる可能性を示しており、祭祀が行われた時期についても、7世紀末～8世紀前半の時間幅を考えておかねばならないだろう。

本遺跡から得られた知見が、今後、金川流域さらには甲府盆地周辺地域における古墳時代～奈良時代の様相の解明に、寄与することを願いたい。

参考文献

- 甲斐丘陵考古学研究会1979『御坂町の埋蔵文化財』御坂町教育委員会
坂本美夫1987『二之宮遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第23集 山梨県教育委員会
坂本美夫・末木 健・堀内真1983『第Ⅱ部 集落址出土土器の編年と背景 Ⅲ甲斐地域』
『神奈川考古 第14号』
末木 健1987『姥塚遺跡・姥塚無名墳』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第24集
山梨県教育委員会
田代 孝1988 横堀遺跡『山梨県埋蔵文化財センター年報4』
荻原三雄1974『下成田』山梨県教育委員会

図 版



調査風景



調査風景



調査風景



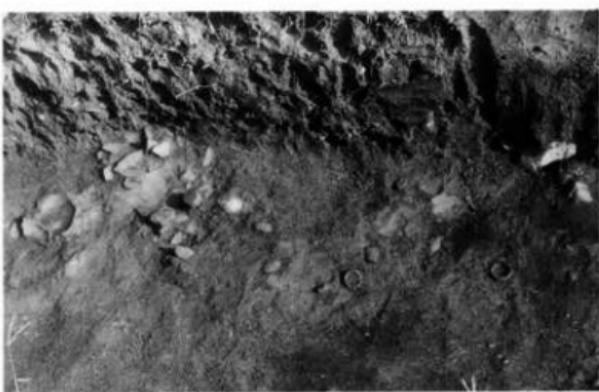
遺物包含層檢出狀況



遺物包含層檢出狀況



遺物包含層檢出狀況



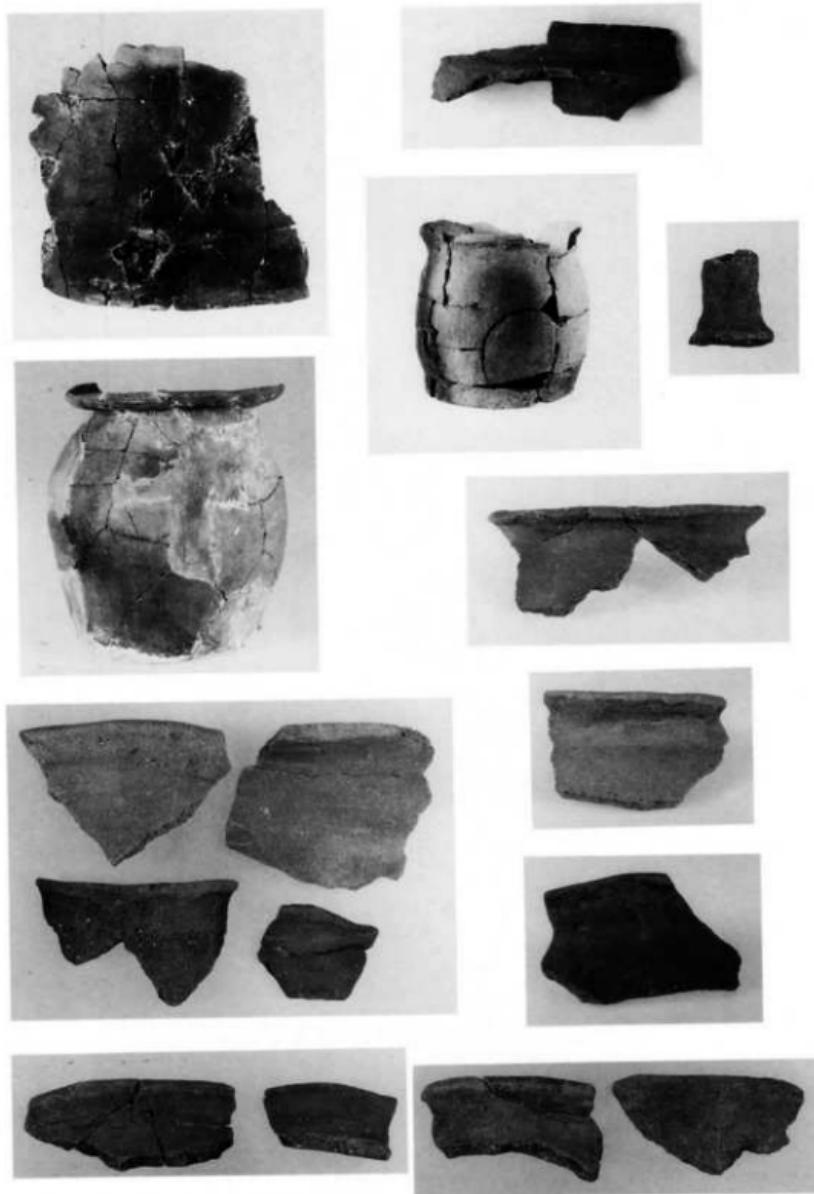
遺物出土状態



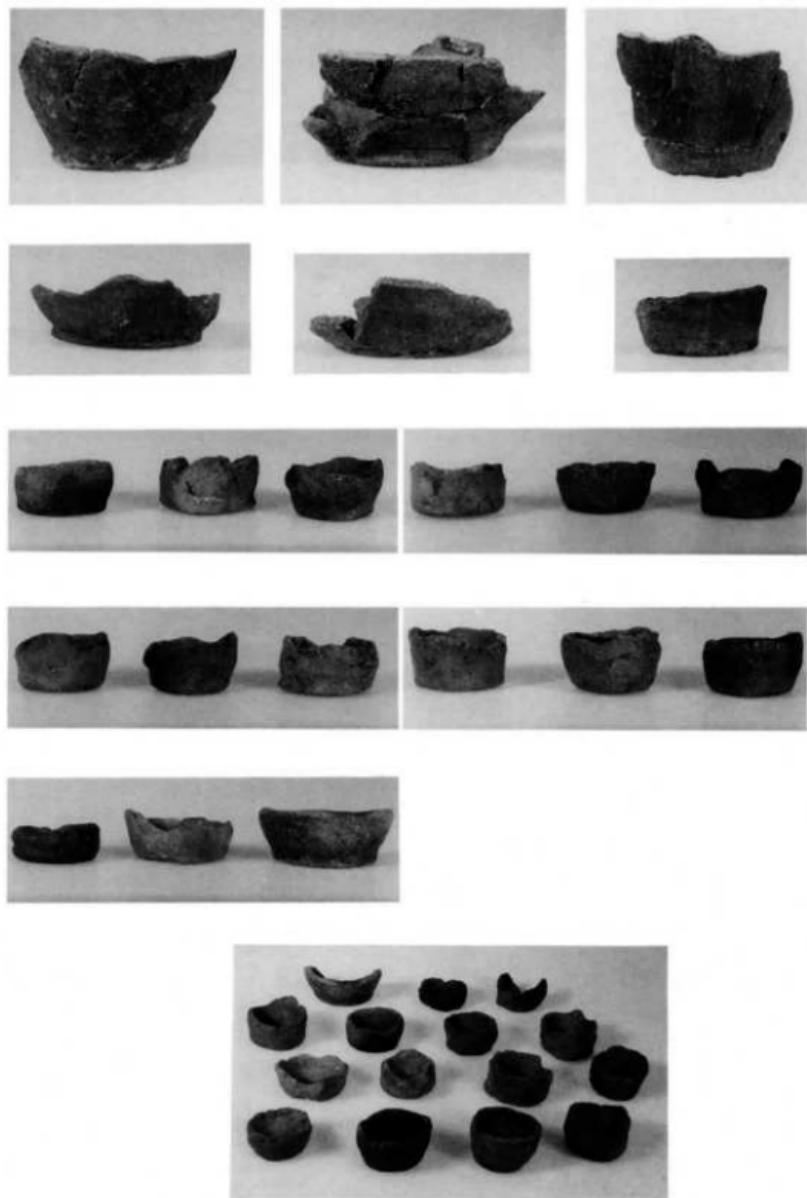
遺物出土状態



遺物出土状態



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第43集

横堀遺跡A地区

—国道137号線バイパス建設に伴う発掘調査報告—

1988年3月25日 印刷

1988年3月30日 発行

発行所 山梨県教育委員会
山梨県土木部
印刷所 佛峠南堂印刷所

